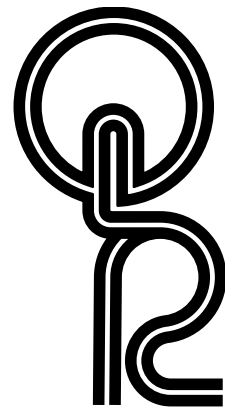


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 15 No.3, 2008



Basin and Range 北部 Lemhi 断層 Warm Creek セクションの三角
末端面と最終氷期の扇状地を切る低断層崖．アイダホ州中東部
Borah Peak 上空より．奥村晃史撮影．

Vol. 15 No. 3

June 1, 2008

大会予告・・・・・・・・・・	2	INQUA 執行委員会・関連事業報告・・	7
学生会員継続届・・・・・・・・	3	・・・・・・・・・・・・・・・・	7
研究委員会集会案内・・・・・・・・	4	学会会議議事録・・・・・・・・	9
紙碑・・・・・・・・・・	6	幹事会議事録・・・・・・・・	10
メーリングリスト移行案内・・・・	7	会員消息・・・・・・・・	12

日本第四紀学会2008年大会案内(第3報)

大会の概要

日本第四紀学会2008年大会は以下の予定で開催されますので、多数の皆さんのご参加をお願いいたします。

1. 日時・開催場所：2008年8月22日(金)～8月24日(日)
東京大学本郷キャンパス理学部1号館小柴ホール(東京都文京区本郷7-3-1)
http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

2. 日程

- 8月22日 一般研究発表(口頭及びポスター)・評議員会
- 8月23日 一般研究発表(口頭及びポスター)・総会・懇親会
- 8月24日 シンポジウム
- 8月25～26日 巡検「関東東部沿岸域の地質・地形・人間活動」

3. 発表の申し込み締め切り

前号でお知らせしましたとおり、一般研究発表(口頭およびポスター)の申し込み締め切りは2008年6月5日(木)となっています。前号の「研究発表の申し込み」を参照の上、講演要旨原稿と共に期限までにお申し込みください。

シンポジウム・巡検・普及講演会

4. 「第四紀後期の気候変動と地球システムの挙動 - その原因とメカニズムの解明に向けて - 」
世話人：三浦英樹・横山祐典・川村賢二

このシンポジウムでは、世界各地の地形地質や海底堆積物、アイスコア試料に残された第四紀後期(主として最終間氷期以降)のオービタルスケールおよび千年スケールの気候変動の記録・証拠を示し、変動が生じた地域間、現象間の因果関係・相互関係や、それらの変動がなぜ生じたのかという原因論の研究についての最近の研究状況について紹介し、以下の点について、議論し、理解を深めることを目的とします。

- (1) 第四紀後期に認められるグローバルな気候変動(オービタルスケールおよび千年スケール)のメカニズムに関する主要な研究の中で、わかっていることとわかっていないこと、いま考えられていることはどういうことなのか。
- (2) グローバルな気候変動記録の中で日本周辺や東アジアの古気候・古環境変動の記録はどのように位置づけられ、なぜ、どのようにして日本周辺や東アジアの変動が生じてきたと考えられているのか。
- (3) グローバルな気候変動の研究は、予算的にも個人レベルで行うよりも南極観測事業やIODPのような国家レベルの大型研究を必要とする場合が多いが、これらの既存の事業を学会あるいは日本の古環境研究コミュニティとしてどのように活用し、不足している調査や試料・データの取得を戦略的に進めて、国内の研究にフィードバックしてゆくべきか。

5. 巡検

「関東東部沿岸域の地質・地形・人間活動」

「Geology, landform and human activity in the coastal area of eastern Kanto Plain」

関東平野東部の沿岸地域の更新世～現在までの環境変遷や形成プロセスを台地(飯岡台地と鹿島台地)の地質や、低地(九十九里浜平野と霞ヶ浦)の地形や堆積物などからみていきます。また、それらに基づく人間の生活様式や生産活動などもあわせてみながら、この地域の第四紀を包括的に観察します。

日程：2008年8月25日(月)～26日(火)1泊2日

案内者：岡崎浩子，目代邦康，田村 亨，中里裕臣，中島 礼，納谷友規，江口誠一

巡検の概要と日程(予定)

8月25日(月)8:15 千葉駅西口 NTT千葉前集合 バスにて九十九里浜平野に向かう

- ・ 九十九里浜平野（海岸地形と海浜堆積物ボーリングコア観察，浜堤列と漁労集落見学）
- ・ 飯岡台地（犬吠層群 Ob1,2 (Kd39,38), Ty1 (TE-5) テフラと香取層観察）

宿泊：かんぼの宿潮来 〒311-2404 茨城県潮来市水原 1830-1 TEL 0299-67-5611
8月26日（火）

- ・ 鹿島台地（下総層群海成層の観察と貝化石の採集）
- ・ 霞ヶ浦環境科学センター（湖岸地形観察と施設見学）
- ・ 上高津貝塚（縄文後期の遺跡と考古資料館見学）

TXつくば駅4時解散 JR常磐線荒川沖駅4時半解散

天候・交通事情等により若干の変更あり。

募集人員：30名（中型バス使用）15名未満の場合は中止

参加費：2万円*（1泊2食宿泊費，昼食代，バス代，高速代，資料代等を含む）

*人数によっては5千円程度まで増える可能性があります。

申し込み方法：参加希望者は，ハガキまたはe-mailにて，氏名・所属・連絡先（住所・電話・メールアドレス），定員オーバーの場合のキャンセル待ち希望の有無を明記し，下記の宛先に申込みください。

先着順に受け付けます。電話での申込みは受け付けません。受付後に個別に案内等を送付します。参加の確認と参加費の徴収および巡検資料の受け渡しは，学会期間中に巡検コーナーを設けて行う予定です。巡検のみ参加される方は，その旨をお書き添えください。

申し込み先：〒150-0046 東京都渋谷区松濤 1-25-8 松涛アネックス 2F

自然保護助成基金 目代邦康 e-mail:2008qr(at)gmail.com

申し込み締め切り：8月9日（土）定員に達し次第，受付終了といたします。

6. 普及講演会「極限のフィールドワーク：南極観測からわかる地球環境変動の過去と未来」は9月以降に東京都内で実施する予定です。場所と開催日時は，決定次第お知らせいたします。

7. 大会実行委員会

実行委員会委員長 多田隆治

連絡先：実行委員会事務局長 三浦英樹

〒173-8515 東京都板橋区加賀 1-9-10 国立極地研究所

E-mail : miura(at)nipr.ac.jp Tel : 03-3962-8095 Fax : 03-3962-5741

学生会員の皆さまへ「学生会員継続届」提出のお願い

2000年度から学生会員は，毎年在籍中であることを「学生会員継続届」として提出して頂くことになっています。

2008年度（2008年8月1日～2009年7月31日）を学生会員として継続希望される方は，A4判の用紙（様式自由・ワープロ使用）に，申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ，指導教官の署名または捺印を添えてお送りいただくか，有効期限が明記された学生証のコピーを2008年6月30日（月）までに日本第四紀学会事務局まで郵送してください。本届が提出されない場合は，2008年度第1回目会費請求時に，正会員会費にて会費請求がされますので，ご注意ください。

なお，2007年度から学生会員として入会された方も提出願います。

また，日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問合せ・送付先：〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町 519 番地

洛陽ビル 3階 日本第四紀学会事務局

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com

TEL : 03-5291-6231 / FAX : 03-5291-2176

提出方法：郵便に限ります。

日本旧石器学会開催のお知らせ

日本第四紀学会研究委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」の共催事業の日本旧石器学会が下記とおり行われます。

2008年度 日本旧石器学会プログラム

- 1 日 時 2008年6月21日(土) 12:00-18:00, 22日(日) 9:00-15:00
- 2 場 所 首都大学東京 八王子 南大沢 キャンパス
- 3 総 会 6月21日(土) 12:00-12:50
- 4 記念講演 6月21日(土) 13:00-15:40

13:00-14:20

シュヴァーベン高地のジュラ山系における中期旧石器時代後半から上部旧石器時代前半の調査研究

ニコラス・コナード (チュービンゲン大学教授)

< 通訳：東京大学総合研究博物館 門脇誠二 >

14:20-15:40

フールー(Hulu)のウラン-トリウム年代(U/Th)に基づいた放射性炭素年代の較正が酸素同位体ステージ3の考古学的記録へ与えるインパクトについて

オーラフ・イエリス(ローマ・ゲルマン中央博物館旧石器時代研究分野)

< 通訳：東京大学総合研究博物館 門脇誠二 >

15:40-16:00 休憩

5 一般研究発表

6月21日(土) 16:00-17:40

16:00-16:20 田名向原遺跡の再検討 坂下貴則

16:25-16:45 栃木県矢板市高原山黒曜石原産地遺跡群2007年度の調査成果 国武貞克ほか

16:50-17:10 上白井西伊熊遺跡の調査 大西雅広

17:15-17:35 岡山県東遺跡における2つの石器群 - 尖頭器石器群と細石刃石器群の系統について - 三好元樹, 新谷俊典

6 シンポジウム テーマ 「日本列島の旧石器時代遺跡 - その分布・年代・環境 - 」

22日(日) 9:00-15:00

基調報告 9:00-12:30

9:00-9:20 日本列島における旧石器時代遺跡数 大竹憲昭 コメント: 光石鳴巳

9:30-9:50 白滝産黒曜石の獲得とその広がり 直江康雄 コメント: 佐藤宏之

10:00-10:20 南関東における遺跡分布と資源構造 伊藤 健 コメント: 長沼正樹

10:40-11:00 南九州南東部における遺跡分布と領域 芝 康次郎 コメント: 小畑弘己

11:10-11:30 40~15kaの石器群の年代と古環境 工藤雄一郎 コメント: 公文富士夫

11:40-12:00 野尻湖データによる過去6万年間の気候変動の復元 公文富士夫・河合小百合・井内美郎 コメント: 叶内敦子

12:00-12:20 大型哺乳動物化石からみた日本列島における動物相の変遷と絶滅 - とくにナウマンゾウ, オオツノジカ, ヘラジカの時空分布 - 近藤洋一
コメント: 高橋啓一

パネルディスカッション 13:30-15:00

- 7 ポスターセッション 21日(土)・22日(日)両日
 北海道における細石刃石器群終末期の様相 森先一貴ほか
 新潟県真人原遺跡出土尖頭器の使用痕分析(予察) 橋詰 潤・岩瀬 彬
 大阪市平野区瓜破北遺跡(UR07-2次調査地)出土の旧石器 絹川一徳・小倉徹也
 フランス南西部における文化層の信頼性 坂下貴則
 唐沢B遺跡における局部磨製石斧の新資料 堤 隆
 長野県南曾峯遺跡の発掘調査 鶴田典昭
 新潟県本ノ木遺跡出土尖頭器の基礎的研究 久保田健太郎
 愛知県宮西遺跡における狩猟具の様相 小栗康寛・加藤幹樹・高橋秀光
 岐阜県湯ヶ峰下呂石原産地発見の黒曜石製尖頭器 白石浩之・長澤有史
 群馬県鳥取福蔵寺 遺跡の発掘調査 小菅将夫・北関東細石器研究グループ
 旧石器試料のAMS年代測定の問題点と今後の課題(5万年プロジェクト)藤根 久ほか
 パレオ・ラボAMS年代測定グループ

<ポスター説明タイム(予定) 21日(土) 15:40-16:00 22日(日) 12:30-13:30 >

主催：日本旧石器学会

共催：日本第四紀学会研究委員会「東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学」

後援予定：日本学術会議INQUA国内委員会, INQUA Commission on Palaeoecology and Human Evolution

地球温暖化フォーラムのお知らせ

日本第四紀学会「地球温暖化を検討する研究委員会」では『地球温暖化フォーラム』を下記の予定で開催します。

今回は地球温暖化の中でその将来が心配されている氷河について、世界の第一線で活躍する大村 纂 ETH教授(スイス)に講演頂き、その実態と将来の動向、地球社会への影響、地球温暖化のもとで私たちは何をなすべきか、などについて議論を行います。

一般公開で行いますので、多くの皆さんの御参加を期待します。

大村 纂(スイス, ETH): 現温暖化現象下における氷河の変遷

- 観測データのある過去50年間の氷河の変遷を分析し、地球の熱収支の観点からこれを検討し、起こりうる温暖化シナリオのもとでの将来の変化をさぐる -

日程：2008年7月12日(土) 14:00～16:00 [13:30開場]

会場：日本大学文理学部100周年記念館国際会議場

東京都世田谷区桜上水3-25-40, 京王線下高井戸駅下車, 徒歩10分

[事前申し込み不要]

日本第四紀学会2008年度研究委員会紹介URL

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/news/iinkai2008.html>

劉 東生教授のご逝去を悼む

国際第四紀学連合 (International Union for Quaternary Research, 略称 INQUA) の元会長 劉 東生教授が2008年3月6日北京でリンパ腫に伴う肺炎で逝去されました。享年91歳でした。葬儀は2008年3月17日に北京市八宝山革命公墓東礼堂で劉 東生先生治喪委員会主催で挙行されました。葬儀委員長は白 春礼主任でした。

劉教授は1917年11月22日中国遼寧省瀋陽市の鉄道勤務者の家に生まれ、幼少時には日本軍の軍政下で苦しい日々を送ったとのこと。13歳の1930年に天津市の南開中学に進学し、ここから1938年に雲南省昆明市の西南連合大学地質系学部に進みました。1942年に卒業し、軍に入隊して戦後までここで軍務に従事していました。1945年の終戦後、劉教授は中央地質調査所に移り、技術補として楊 鐘健教授の元で古脊椎動物化石の研究を始めました。1953年には中国科学院地質研究所に入り、李四光教授達と第四紀地質研究室を立ち上げ、ここで副主任を経て主任に抜擢されています。1968年には貴州省貴陽市に新設された中国科学院貴陽地球化学研究所に赴任し、10年間古生物関係等の研究に携わっていましたが、その後元の中国科学院地質研究所に戻っています。中国科学院地質研究所では、1999年まで第四紀地質学研究室の教授で、中国の第四紀研究の指導的立場にありました。同時に、中国科学院古脊椎動物および古人類研究所の教授として、亡くなるまで古生物分野でも後進の指導に当たっていました。また、1985年から1992年まで、西安の中国科学院西安レスおよび第四紀研究所の教授も兼務していました。同様な兼務は北京市や南京市の大学でも行われていました。ここでは地質学や地理学の教授として、亡くなるまで学生の教育に当たっていました。中国では中国科学院などの研究機関では大学院生の指導に当たっていますので、中国の第四紀研究者の多くは劉教授の指導を受けて研究者に進んでいます。現在ではいわゆる孫弟子の多くが第一線で活躍しています。

劉 東生教授の主な研究分野は、前述の職歴が示すとおり、古脊椎動物を主とする古生物学、第四紀地質学、レスおよび古気候学、地球環境変遷、山岳科学、環境科学などに及んでいます。また劉教授は研究だけでなく、中国国内に限らず広く各種の委員会の長や議員を受け持ち、学会や社会でも指導的な立場にありました。1979年からは中国第四紀学会の会長であり、1980年以降は中国科学院のアカデミー会員でした。また、1982年から1992年までは国

際地質科学連合 (IUGS) の中国事務局長でした。1982年から1991年まで2期にわたって国際第四紀学連合 (INQUA) の副会長を歴任した後、1991年から1995年まで会長としてこの国際学会の運営に携わってきました。これに先立つ1987年にはINQUAの名誉会員に推薦されています。また、1989年以降、亡くなるまで中国の第四紀学会誌「第四紀研究」の編集長を受けもっていました。1991年からは中国科学院の環境科学委員会の委員長を亡くなるまで引き受けていました。このほか劉教授は第四紀学や環境科学に関する多くの委員会や相談役を引き受けていました。

劉教授は多くの国際共同研究にも関係していましたが、そのうちの一つに1985年に日本との登山に関する国際共同研究に携わっていたのは、ちょうどこの時期、劉教授がチベット高原学会の会長をしている時だったと思います。主な褒賞は1949年に中国地質学会の馬以思奨を受賞して以来、1986年に中国科学院科学技術進歩特等奨、1995年に李 四光地質科学榮譽奨、2003年には国家最高科学技術奨を受賞しています。

劉教授にお世話になった日本の第四紀研究者も大勢いるようです。私自身もINQUA層序委員会のアジア太平洋小委員会や北京原人に関するシンポジウムなどで、かなり頻繁にご一緒しました。中国で開催された第四紀関係の国際シンポジウムなどでは、いつもにこやかに我々に接してくれましたし、決して先輩風や大人態度は示さず、子細なことまで話に乗ってくれました。最後にフィールドでご一緒したのは2002年6月に南京市で開催された古猿に関するシンポジウムの折りで、このときは南京市郊外の古猿発見地や洞窟遺跡でお元気な様子と、変わらぬ笑顔で接していただきました。ご冥福を祈ります。合掌。

熊井久雄



写真は昨年 INQUA 大会で劉 東生先生の愛弟子のおひとり韓 家懋 (Han Jiamao) 教授から頂いたもので、劉先生の卒寿を記念して発行された中国郵政省の記念郵便切手。

第四紀学会メーリングリスト 新サービスの説明

2008年5月20日
日本第四紀学会幹事会

第四紀通信(15巻2号)や学会ホームページでお知らせしましたように、2008年4月下旬に本学会メーリングリストのサーバ移転を行い4月30日より新サービスを開始しました。新メーリングリストの概要を以下にお知らせします。

(1) 新メーリングリストの名称

会員向けメーリングリストを「jaqua」とよびます。これは日本第四紀学会の英語名称に因むもので、国際第四紀学連合INQUAやアジア第四紀学連合AsQUAとの調和も考慮しています。

送信(from)元アドレスは、jaqua(at)shunkosha.com となります。

(2) メールアドレスの登録者

2008年4月下旬の時点で学会事務局名簿に登録されているアドレスを一括自動登録しました。複数アドレスの届出がある場合は勤務先優先としています。1会員1アドレスです。旧メーリングリスト(jaqr)の登録アドレスは継承されていません。

(3) 記事の投稿

メーリングリストjaquaへの投稿ご希望の場合は、広報幹事までメールまたはFAX等でお知らせ下さい。jaquaでは添付ファイルの配信も可能ですが、1通あたりの総容量が10MB超のメールは配信できません。また配信まで多少時間をいただく場合もありますので、ご了承ください。

日本第四紀学会 広報幹事 荻谷愛彦

郵便番号 214-8580 川崎市多摩区東三田 専修大学文学部 環境地理学専攻

044-700-7814 (FAX) kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp

(4) 新規加入・変更・脱退

いずれも学会事務局に連絡下さい。登録や変更が反映されるまで数週間を要することもありますので、よろしくお願いたします。

日本第四紀学会事務局 郵便番号 162-0041 新宿区早稲田鶴巻町 519 洛陽ビル 3階

daiyonki(at)shunkosha.com 03-5291-6231 (電話), 03-5291-2176 (FAX)

(5) 不達メール

連続して複数回不達となったアドレスのうち、「user unknown」など送付先が存在しないとの理由で不達となったものは登録者に確認せず削除する場合があります。アドレスが削除されても、事務局へ新アドレスのお申し出があれば随時復活できます。なお、転送設定されている方は転送容量等の関係でしばしば不達になることがありますので、ご注意ください。

INQUA 執行委員会および関連事業に関する報告

日本第四紀学会 INQUA 執行委員会組織員会
奥村晃史・三田村宗樹・横山祐典・宍倉正展・里口保文

2008年4月1日から3日までINQUA(国際第四紀学連合)の執行委員会が東京・日本学術会議で開催され、執行委員と研究委員会委員長12名が参加してINQUAの当面の活動について協議しました。この会議は毎年一回加盟国のいずれかで開催されますが、今回は2007年夏の第17回大会で奥村が副会長に選出されたことをうけ、初めての日本開催となりました。この機会に世界の第四紀学をリードする委員会メンバーの研究を日本の研究者に紹介し交流を深めるとともに、初めて来日する多くの委員に日本の第四紀と第四紀研究を知ってもらうため、房総と琵琶湖の巡検、意見交換会、ミニシ

ンポジウム(東京・大阪)を開催しました。執行委員会および関連事業の開催にあたっては、日本学術会議、東京大学地震研究所、地質学会関西支部、応用地質学会関西支部、大阪市立大学、日本第四紀学会と多数の会員の支援をいただきました。ここに記して感謝の意を表します。

1. 房総巡検(3月31日 奥村晃史・宍倉正展)
執行委員会前日の3月31日日帰り房総巡検を実施した。アクアライン海底トンネルで東京湾の第四系層序とテクトニクスを概説した後、花冷えで冷たい雨が降る中、君津市大岩小糸川河岸の上総層群黄和田層Kd38層準と鮮新統-更新統境界を見学した。第四紀と更新世の定義

変更に伴って過去のものとなるかもしれない『鮮新統 - 更新統境界』の概略位置を確認しながら定義問題について議論した。激しい地殻変動を如実に示す深海扇状地堆積物の隆起と変形は、安定地域からの参加者に強い印象を与えた。また吉川ほか(1996)論文などに総括された詳細なテフラ・古生物・古地磁気層序等の情報もあわせて紹介をした。午後は完新世の地震性隆起の痕跡を千倉町平磯の大正地震隆起ベンチ、4面の元禄地震タイプ段丘とその前縁の大正地震タイプベンチ、ヤッコカンザシを観察し、巨大地震の繰り返しを明瞭な地形から確認した。さらに南房総市岩井の隆起浜堤列にみられる大正地震タイプ隆起の繰り返しについて、宍倉モデルと現実の微地形の対応、ジオスライサを用いた堆積物の調査方法について議論を交した。

2. 日本学術会議INQUA分科会・INQUA国内委員会とINQUA執行部との意見交換会

4月2日午後、INQUA執行委員が金澤一郎日本学術会議会長を表敬訪問して日本政府のINQUA支援に謝意を述べると共に、第四紀研究の意義と課題について説明をした。その後午後4時30分から1時間余りINQUA執行部と日本のINQUA関係者との意見交換会を開催した。INQUA国内委員会と日本第四紀学会の紹介に続いて、第四紀定義問題への対応や、アジアでの第四紀研究の振興、INQUAへの要望等について議論を行った。同日夕方、INQUA分科会・INQUA国内委員会主催のレセプションを開催し30名が参加した。

3. INQUA執行部による東京シンポジウム(4月4日 横山祐典)

4月4日13時~17時、東京大学地震研究所1号館セミナー室において、INQUA執行部5名と横山の講演によるシンポジウムを開催した。年度始めの多忙な時期ではあったが、約50名が参加した。『第四紀研究のフロンティア』と題した講演会では、日本の奥村副会長から地震災害緩和に貢献する日本の第四紀研究の紹介、Coxon氏によるインド北部における洪水イベントの復元の研究、Ashworth氏による中新世の南極の環境変動、横山による高緯度地域とモンsoonアジアの気候変動のリンクに関する研究、Harrison氏による将来予測のための過去の様々な記録を用いたマルチモデリングの研究、そして最後に、Pillans氏による、「第四紀」の定義問題についての講演がそれぞれ行われ、参加者との間で活発な質疑が行われた。終了後開催された懇親会も、気さくな執行部メンバーが多く、若い研究者との会話も弾み、和やかな雰囲気の中で行われた。

4. INQUA執行部による大阪シンポジウム(4月4日 三田村宗樹)

INQUA執行委員会メンバーのうちChivas会長、Avery副会長、Loutre氏、Baeteman氏の4名が4月4日大阪に来訪し、大阪駅前的大阪市立大学文化交流センター大セミナー室で講演会を実施した。講演会は、「第四紀国際学術講演会」として日本第四紀学会・日本地質学会近畿支部・日本応用地質学会関西支部の3団体の共催で実施された。講演会では、日本第四紀学会の熊井前会長を含めて上記の方々で5講演(各40分)が行われた。はじめに熊井氏から現在懸案となっている「第四紀」の改廃問題について紹介していただいた。その後、Chivas会長よりオーストラリア大陸北側に位置するCarpentaria湾の後期更新世以降の環境変遷について、Loutre氏より単純化させた2次元モデルでの気候シミュレーションの紹介、Avery副会長より小型哺乳類化石を指標にした南アフリカの環境変遷の紹介、Baeteman氏より、北海沿岸域低地における沖積層形成過程の紹介が行われた。いずれも熱心に講演を聞き、一部の講演で時間超過もあり、全体の予定時間を30分程度延ばして無事終了した。参加者は、大阪・神戸・京都だけでなく名古屋などの遠方からも参集頂き、研究者・学生を中心に38名の参加が得られた。

5. 琵琶湖巡検(4月5日 奥村晃史)

大阪シンポジウムに参加したメンバーを翌日琵琶湖に案内した。快晴の中満開の桜がまばゆい湖畔から比叡山に登って琵琶湖と京都盆地の眺望を楽しみつつ、鮮新世以降の琵琶湖の生い立ちを解説した。次いで延暦寺根本中堂に立ち寄り、京都と日本の仏教の歴史に触れた。仰木へ向け下山する途中、堅田丘陵の地形を観察して、中期更新世以降に生じた堆積盆の分化と丘陵・山地の隆起、饗庭野など隆起扇状地の形成、琵琶湖西岸断層帯の活動について説明した。近江舞子まで北上し昼食の後、湖畔を散策して湖岸の地形と比良山麓のファンデルタ、湖岸に打ち上げられた貝殻などを観察して、巡検を終了した。

6. 将来のINQUA日本大会招致に向けて

関係各位の協力を得て委員会、巡検、歓迎行事ともにきわめて順調に終えることができ、参加者には日本の第四紀研究と研究者、さらに会議を行う環境について大変良い印象をもってもらえた。意見交換会とレセプションでは、日本側出席者から2003年に不調に終わった日本招致を2015年に向け再度検討してみたい意志も伝えられ、それを歓迎する声もあった。2011年ベルン大会に向け、論文や研究集会を通じて日本から世界への発信を一層進めるとともに、日本招致についての議論が第四紀学会と関連する研究者の中で進展することが期待される。

日本学術会議 INQUA 分科会第20期第2回 議事録

2007年12月26日10:00-12:15 日本学術会議 5-C1 会議室

出席者：碓井照子，奥村晃史，田村俊和，渡邊眞紀子，オブザーバ（INQUA 国内委員会）：太田陽子，町田 洋，小野 昭（記録：渡邊）
配布資料：

- (1) 第1回 INQUA 分科会議事録
- (2) INQUA 大会報告
- (3) INQUA 分科会・国内委員会名簿と新体制案
- (4) INQUA プロジェクトガイドライン
- (5) INQUA2008 年執行委員会計画・参加者一覧
- (6) 第20期第4回国際対応分科会議事録（2007-11-01）
- (7) Information on INQUA (2007-11-21会議資料)
- (8) Quaternary Perspectives Newsletter of the International Union for Quaternary Research (INQUA) vol.17, no.1, 2007

審議事項

1. 第1回分科会議事録について
一部（以下の下線部）を修正した案を承認した。
修正箇所：2003年の失敗を踏まえて 2003年の教訓を踏まえて
2. INQUA 大会報告について（報告）
資料(2)にもとづき，奥村委員長より17回 INQUA ケアンズ大会（2007年7-8月）の報告がなされた。
3. INQUA 国内委員会の新体制について
資料(3)にもとづき，奥村委員長より INQUA 国内委員会の新体制案について説明がなされ，意見交換を行った。その結果，以下を承認した。
・委員長の交代 奥村晃史 斎藤文紀
・委員の選定は，INQUA の5つのコミッションに合わせた研究委員会と日本第四紀学会の研究委員会を加えた体制で検討する。
4. 平成20年度代表派遣候補選考について
第33回IGUオスロ大会への代表派遣候補として奥村晃史を決定した。
5. INQUA プロジェクト公募について
資料(4)にもとづいて，奥村委員長より INQUA プロジェクトガイドラインについて説明がなされた。日本人が起案して committee

に出していく案として，テフラ研究グループと Paleocology and human evolution の2つの提案が予定されていることが委員から情報提供があった。

6. INQUA 執行委員会対応について

資料(5)にもとづいて，奥村委員長より2008年 INQUA 執行委員会の日本開催の受け入れ経緯について説明がなされ，実施体制等について意見交換を行った。レセプション，ミニシンポジウム（東京・大阪開催）房総日帰り巡検の実施体制，執行委員会と学術会議関連（会長表敬訪問，INQUA 分科会の開催）の日程調整，予算の確保等について検討した。

7. 国際対応分科会について（報告）

資料(6)にもとづいて，奥村委員長より INQUA 分科会に関わる国際対応分科会審議事項について報告がなされた。この中で，年次レポートの作成が予定されていること，小委員会への分科会の分属については，INQUA 分科会はこれまで通り，独立分科会として活動していくことになったことが報告された。

8. 会員・連携会員・特任連携会員の推薦について

21期会員及び連携会員の推薦について情報・意見の交換を行った。20年度特任連携会員候補として，斎藤文紀氏，横山祐典氏の2名を推薦することが承認された。

9. 国際対応委員会ヒアリングについて（報告）

11月19日に行われた国際対応委員会のヒアリングの状況について奥村委員長より報告がなされた。資料(7)を参考として，INQUA 組織へ分担金に関するルールについて INQUA に説明を求めていくとともに，分担金カテゴリー6である日本からの国際発信を強めて INQUA プレゼンスを高めていく方策について意見を交換した。

10. 日本第四紀学会50周年記念国際シンポジウム（報告）

町田委員より，2007年11月につくばで開催された日本第四紀学会50周年国際シンポジウムの報告がなされた。アジア地域のコミュニケーションの組織をつくることが決議されるなどの成果があった。

11. INQUA 招致と2008年度国内活動について

2015年 INQUA 招致を照準とする活動として，QI(Quaternary International)の特集号企画，INQUA 分科会主催シンポジウムの開催などの活動案が出された。

以上

日本学術会議 INQUA 分科会第20期第3回 議事録(案)

2008年4月2日 15:30-18:00 日本学術会議
5-C2 会議室

出席者：奥村晃史，田村俊和，渡邊眞紀子，オ
ブザーバ (INQUA 国内委員会)：太田陽子，
町田 洋，熊井久雄，小野 昭，斎藤文紀
(記録：渡邊)

配布資料：

- (1) 第2回 INQUA 分科会議事録案
- (2) INQUA 執行委員会名簿
- (3) INQUA 執行委員会議事次第
INQUA Executive Committee Meeting
Agenda, Tokyo, April 1-3, 2008
- (4) JAQUA 紹介資料
SCJ and its president/ JAQUA-ACJ-
INQUA facts/A list of SCJ-INQUA and
Japanese Committee April 1, 2008/
Brief history of JAQUA
- (5) INQUA-JAQUA シンポジウムプログラム
- (6) 日本第四紀学会紹介 (英文)
- (7) Abstracts Volume of International Sym-
posium on Quaternary Environmental
Changes and Humans in Asia and the
Western Pacific, Geological Survey of
Japan Interim Report no. 42, 2007

回覧資料：

- (1) 日本第四紀学会研究委員会「東アジアにお
ける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古
学」・日本旧石器学会共催シンポジウム (日本
列島の旧石器時代遺跡：その分布・年代・環境)
への後援について (申請案)

審議事項

1. 第2回分科会議事録について
資料(1)の議事録案を承認した。
2. 4月2日のINQUA執行部との会合について
資料(2), (3), (5)にもとづき，奥村委員長よ
りINQUA執行委員会について説明がなされ，
会合の進め方とINQUA国内委員会としての対
応について意見交換を行った。
3. 2008年度活動計画について
・20期の活動をとりまとめる意味でシンポジ
ウムの企画などの活動計画について意見が交わ
された。
・回覧資料(1)にもとづき，日本第四紀学会研
究委員会「東アジアにおける酸素同位体ステ
ージ3の環境変動と考古学」・日本旧石器学会
共催シンポジウム (日本列島の旧石器時代遺跡：
その分布・年代・環境)について小野委員より
説明がなされ，学術会議後援の申請が承認さ
れた。
・環境変動を中心とする大型プロジェクト申請

の可能性など，その他の活動について情報提供
がなされた。

4. 2015年INQUA招致について

今後のスケジュールとして，次回INQUA分
科会(6月予定)における審議，決定を踏まえ
て，2008年8月開催の日本第四紀学会総会
の承認を経て，準備委員会を立ち上げていくこ
とが確認された。

5. INQUA執行部との意見交換 (17:05 ~ 18:
00)

・参加者 (日本側9名，INQUA執行部12名)
の自己紹介がなされた。

・配布資料(7)にもとづいて，2007年11月
INQUA Regional Meeting, Tsukuba
(International Symposium on Quaternary
Environmental Changes and Humans in
Asia and the Western Pacific)の報告および
アジアの動向について斎藤委員より紹介がな
された。これに対して，INQUA執行部側より，ア
ジア諸国への橋渡し役を日本に期待するという
意見が出された。

・配布資料(4)と(6)にもとづいて，日本第四紀
学会の紹介が町田委員よりなされた。これに対
して，INQUA執行部より，日本国内(とくに
大学)における第四紀学の盛衰，学術会議と国
内委員会との関係などについて質問がなされ，
情報交換を行った。

・Quaternaryの定義問題に関連して，2008年
8月IGCオスロ大会の動向および第四紀の基底
年代等に関する見解について情報交換がな
された。

・アジア諸国からの提案や委員会参画に向け
て，アジアにおける研究活動の活発化と現行の
予算枠組み (category ship) 再考の必要性に
ついて，太田委員・奥村委員長より要望が出
された。これに対して，国内組織対応がまだ十分
でないアジア諸国が個々の国で加盟する必要は
ないこと，INQUAへの参加を実現する上で日
本の役割に期待する等の見解がINQUA執行部
側から出された。

以上

日本第四紀学会2007年度第7回幹事 会議事録

日時：2008年4月20日(日) 13:00-18:15
場所：専修大学 神田1号館 8B 会議室

出席者：町田 洋(会長)，遠藤邦彦(副会長)，水
野清秀，鈴木毅彦，公文富士夫，岡崎浩子，百原
新，三浦英樹，吾妻 崇，渡辺真人(産総研)，中
川庸幸(事務局)，荻谷愛彦(記録)

議事進行に先だち、前回議事録はメーリングリスト上で確認済みであることを再確認した。

(報告および議事)

1. 庶務

1) 会員動向・入会1名、退会5名。2) 退会届の取扱を検討した。3) 書評依頼1件(名古屋大学出版会)。4) 図書寄贈2件(法政大学地理学会/オリエント美術館)。5) 学会事務局連絡物7件(日本地球惑星科学連合関係2件/国立情報研究所/立命館大学/国立女性教育会館/自然環境研究センター/残土石処分地・廃棄物最終処分場に関わる地質汚染調査浄化技術研修会)。6) 後援依頼2件(日本活断層学会/神奈川県生命の星・地球博物館)を了承した。各記事は学会ホームページに掲載することにした。7) 転載許可申請2件(教育出版/六一書房)を了承した。8) 依頼4件(日本学術振興会/学術著作権協会/国立環境研究所/Melrose Press)を協議した。日本学術振興会について、本年度は日本学術振興会賞の学会推薦を行わず、ホームページとメーリングリストを通じ会員へ周知するのみとした。学術著作権協会は庶務幹事が調査・対応することにした。環境研究所に対応することにした。他の1件は対応しないこととした。9) 科学研究費(研究成果公開促進費)は不採択となった。

2. 編集

1) 第四紀研究47巻3号の編集状況を報告した。2) 2007年神戸大会特集号(47巻4号)の編集状況を報告した。3) 本会シンポジウム「地考古学」特集号を発刊する見込みである。4) 受理状況・手持ち原稿数を報告した。5) 執筆要項は引きつづき見直し中である。

3. 広報

1) 第四紀通信の編集・配布及び編集用消耗品の購入について報告した。2) ホームページの管理/更新状況を報告した。3) 学会及び幹事会メーリングリストの現況を報告した。4) 学会及び幹事会メーリングリストの移行計画を報告し、移行作業は4月最終週に行うこととした。メーリングリストの名称を、会員用はjaqua、幹事会用はjaqua_k07と決定した。送信・変更権限等は従来通りとする。5) 第四紀通信やホームページでのメールアドレスの表記法を変更することにした。6) 第四紀通信15巻3号の編集予定を確認した。

4. INQUA 執行委員会組織委員会

1) 房総巡検を行った(3月31日、奥村・穴倉両会員案内;参加12名)。2) 日本学術会議INQUA分科会・INQUA国内委員会・INQUA執行委員会の意見交換会を開催した(4月2日、東京)。3) INQUA分科会・INQUA国内委員会主催のレセプションを開催した(4月2日、東京)。4) INQUA執行部の東京および大阪シンポジウムを開催した(4月4日、東京大学及び大阪市立大;各参加約40名)。以上の各行事の報告を第四紀通信に掲載することにした。5) 巡検とシンポジウムの会計報告が了承された。(以上、奥村評議員作成の報告を町田会長及び苅谷幹事が代読)。

5. 渉外

1) 自然史学会連合からの「大阪府の博物館施設の

見直しに対する要望」呼びかけに同意することにした。また庶務幹事より本会独自の要望を盛りこむよう、同連合に依頼することにした。2) 1)に関連して、本会会員から情報提供があった「大阪府の博物館を支援する会」に対し、町田会長から賛同の文書を送ることにした。3) 日本地球惑星科学連合事務局から依頼があった第四紀セッションのハイライト発表論文の推薦については、発表分野が多岐にわたり1件に絞れないことから今回は見送ることとした。4) 地球惑星科学連合大会におけるセッションの集約について本会から要望することにした。

6. 幹事長

1) 国際地学オリンピック日本委員会からの協賛団体加入呼びかけについては、次回幹事会で再検討することとした。2) 日本におけるジオパーク推進体制について、産総研地質調査総合センターの渡辺真人氏に出席いただき、経緯や準備状況の説明と質疑応答を行った。町田会長を日本ジオパーク委員会委員に選出することにした。

7. 行事

1) 地球惑星科学連合大会のプログラムと座長について報告した。2) 本会2008年大会申込書のファイルをホームページに掲載した。3) 2008年大会シンポジウム及び普及講演会の詳細を世話人(三浦幹事)と協議のうえ早急に確定し、ホームページやメーリングリストで周知することにした。4) 2008年大会巡検実施要領について行事幹事と巡検世話人(岡崎幹事)で最終案をまとめ、第四紀通信やホームページ等で会員に周知することとした。5) 2009年大会開催校を検討中である。

8. その他

1) 幹事長より、学会賞受賞選考委員会及び論文賞受賞選考委員会の現況が報告された。2) 幹事長より、日本ジオパーク委員会支援組織について2007年冬のシンポジウム講演者の一部に協力してもらう予定であることが報告された。本組織の具体的活動内容は、日本ジオパーク委員会の意向を聞きつつ今後検討することにした。3) 研究委員会助成金配分について審議し、3件の申請を承認した(東アジアにおける酸素同位体ステージ3の環境変動と考古学/テフラ・火山/地球温暖化問題を検討する)。今後は会員向けのオープンな企画等にも助成金を活用してもらい、各委員会からの計画案に対し幹事会から積極的に意見を述べることとした。4) 地球温暖化問題を検討する研究委員会関連の公開講演会を後援することにした。5) 功労賞候補者を各幹事がリストアップすることにした。6) 評議員会・評議員・幹事会の役割強化について議論した。次回幹事会で継続審議することにした。7) 将来構想検討委員会の立ち上げについて、人選を含め次回幹事会で継続審議することにした。8) 他学会での法務委員会設置状況調査を次回幹事会までに行うことにした。9) 副会長の役割分担を今後議論することにした。10) 富士学会から依頼のあった「富士山に科学(学術)的説明看板を設置する運動」調整委員選出に対し、福岡孝昭会員を推挙することとした。11) 第13回国際花粉学会議及び第9回国際古植物学会議を後援することとした。

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：苅谷愛彦 (kariya(at)isc.senshu-u.ac.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 専修大学文学部環境地理学研究室 苅谷愛彦
〒214-8580 川崎市多摩区東三田2-1-1 Fax: 044-900-7814

広報委員：越後智雄・糸田千鶴 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr/index.html> から第四紀通信バックナンバーのPDF ファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地 洛陽ビル3階
E-mail: daiyonki(at)shunkosha.com
電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176